

全国の聖徒さん紹介

茨城県取手市

照谷寺聖徒団(村上宏壽団長)

野呂幸史さん、六十八歳

俱生神月守に思う

私が初めてこのお守りを頂いたのは、今から十七・八年前に癌で入院していた時でした。

菩提寺である照谷寺聖徒団・村上宏壽団長がわざわざお見舞いに来てくださった時に、ご利益があるからと俱生神月守を授けてくださいました。その入院中は色々ありました。退院してから現在まで癌は再発していません。一時期は月守を身に着けていませんでしたが、妻の強い勧めにより再び身に着けるようになりました。

数年前に弟が癌で入院しましたが、その際月守を持たせました。そのお蔭で癌が小さくなり、ほぼ問題の無いようになりました。

これからもお題目を唱え俱生神月守を毎月欠かさず身に付けてまいります。生かされていることに感謝しています。



「共に勉強」心が洗われる清道衆講習会

照恵寺聖徒団

八月二十八日、北海道平取町照恵寺聖徒団(品田祥皓団長)において、本部より光枝妙珠講師、阪口映徳講師が出席し、七年ぶりとなる清道衆講習会が開催された。

参加者は十数名と少なかったが、講師、参加者共に有意義な講習会となった。

今回は、まだ出講した事の無いお二人にお願い致しました。

自坊に於いて檀信徒にお話をすることは多くても、外に出てお話をすることは少なく、大変な事です。講習会は時間は短いかもしれませんが、



優しく教える光枝先生



わかりやすい阪口先生の講義

清道衆講習会を受講して



照恵寺聖徒団 滝田 友江さん

八月二十八日、清道衆講習会が開催され、岐阜県・東京より、お二人の講師が遠路はるばるお越しになりました。

ご自身の過去の体験、奥様・旦那様との出会い等を交え、講習会に参加した私達とは「過去に何らかの形で既に出逢っている」と言う言葉がとても心に残りました。

お話に笑いを交え、参加した聖徒は、お題目を家族で唱える。その大切さを心に刻む講習会となりました。(品田団長談)



講習会が終わり皆で記念撮影

また、心の目を大きく開き、困っている・悩んでいる人に何時も俱生神月守の着帯をすすめる。

今回、講習会に遅れて来た足の悪いお年寄りには率先して椅子を用意したりと大曼荼羅ご本尊の世界を實踐し、行動で示しておられました。眠気が差す時間帯では「眠っているも、ちゃんと毛穴から話は入っている」と言ってくれ、楽しく講義を受ける事が出来ました。



照恵寺聖徒団 平村 公子さん

お二人の講師が自分の経験・体験を踏まえ、法華経、お題目の話を解りやすく話してくれました。非常に良い講習会でした。



照恵寺聖徒団 濱田 君子さん

前回の講習会は主人が病気で私だけが参加しました。今年は二人で参加できました。

毎月盛運祈願会に参加し、「南無妙法蓮華経」とお題目を唱え、俱生神月守を着帯しています。家族が何事も無く過ごせる事を心より願って暮らしています。

毎日「南無妙法蓮華経」と唱える事の大切さ、「南無妙法蓮華経」と唱える事を継続する大切さを再認識しました。

お題目を唱えて、自分以外の人の幸せも祈り、自分自身も幸せになれるようにお題目を唱えたいと思います。

吉田亮善講師の富楼那の弁に感動！信仰を学ぶ

宮崎県延岡市 本東寺聖徒団など九州各地で一日伝道開催

八月七日、宮崎県延岡市本東寺聖徒団(吉田海心団長)に於いて、お施餓鬼法要に併せ、本部より吉田亮善講師(終身名誉顧問)が出席し、一日伝道が開催された。十六年間毎年、吉田講師に法話に来ていただき今年も人が人を呼び、当日は二百名を超す聖徒で檀信徒会館が埋め尽くされた。

吉田講師は私たちが信仰する『大曼荼羅御本尊』をわかりやすく解説され、私たちが生活するこの世界に曼荼羅の世界を作っていく事がお題目を信仰する我々の役目である。お題目を唱え、お互いが支え合いながら共に生きていく事が曼荼羅を顕現していく道。またお題目・俱生神月守の有り難さを熱く語り、檀信徒一同笑いあり涙ありの感動の一時となった。

翌八月八日には、同じく宮崎県都農町龍雲寺聖徒団(吉田憲由団長)に同講師が出席し、一日伝道が開催され、本堂内には百人の聖徒が詰めかけた。聖徒さんは口々に「今年も吉田先生の有り難い法話をきけて幸せでした。初めて御本尊の意味が分かりました。家庭の中でも曼荼羅を作っていくように信仰に励みます」と話していた。また十六日には川南町智浄寺でも吉田憲由師を講師に一日伝道が開催された。



信仰を熱く語る 吉田亮善終身名誉顧問



熱心に耳を傾ける 本東寺の聖徒の皆さん

晴天の下

第五十一回全国聖徒団結集身延大会を開催

十月九日・十日、総本山身延山において、晴天の下、第五十一回の結集身延大会が開催された。北海道から九州まで、全国各地の聖徒団が結集し、一日目は祖廟参拝と三門での唱題修行が行われ、二日目は身延山久遠寺の大本堂にて奉告式が厳修された。

本年より十月の開催となり、日没時間に合わせて唱題修行の時間が早められ、



平成二十八年度 霊断法研修会が開催



熱心に耳をかたむける参加者

去る九月十四日〜十六日、二泊三日で名古屋妙泉寺(石黒泰良団長)において平成二十八年度霊断法研修会が開催された。参加者は二十名。講師は石黒泰良先生・新聞信應先生。初日は石黒先生の講義が行われ、二日目と三日目は霊断法の解説を深めるため、参加者が持参した霊示を皆と一緒に考え、解説をし、最後に講師先生に指導

を仰いだ。実習後、新聞先生の「霊断布教について」熱く語った講義が行なわれた。本年度も身のある内容で有意義な研修会であった。参加者の一人は「何度か研修会に参加しましたが、今回の内容は、参加者の一人一人に実習があり、活発な意見が出たのでとても良かったです」と語ってくれた。

よらこびちゃん の質問箱



よらこびちゃん

地獄はどこにあるの?!

死んだら地獄に落ちるとか、地獄で待っている、なんて昔から言われるわね。
死んだ後の苦しい世界だけが地獄だと多くの人は思っているわよね。
ところが、地獄と言っているのは、

死んだ後だけにあるのではなくて、この世にも死後にもあるのが地獄なんだって!

地獄とは、もともとナラカという古いインドの言葉を中国語に直したものでよく、映画なんかで、「ナラカに落ちろ!!」などというセリフがあるでしょ! そのナラカのこと。

それを中国の言葉に訳したものが地獄で意味は苦しみの世界ということなんだって。

死後の苦しみの世界に限ったものではなく、この世で、ひどく苦しい状態を地獄とも言っているよ。

借金地獄と言っているのは、借金で苦しんでいる世界、受験地獄と言っているのは、受験で苦しんでいる世界。

死後だけではない、この世にも地獄はあるのね!

日蓮大聖人は、

「夫れ浄土と云つても地獄と云つても外には候はず・ただ我等がむねの間にあり、これをさぐるを仏といふ・これにまよふを凡夫と云つ」とおっしゃられていますわ!

地獄は我々の心の中にあるって、そして霊山浄土も心の中にあるってことね!

みんなでウソをつかず正し生き方をして地獄の世界にならないようにしていこうね。

そのことを忘れないためにも俱生神月守を着帯して、お題目を唱えつづけなきゃいけないのね!

第六十二回 日蓮大聖人の歩まれた道

諸国への遊学(その十五)

霊断院教学部長

小泉 輝泰

「日月転た短く善者甚だ少くもしは一もしは二人等云云。又云く、衆魔の比丘命終の後、精神まさに無状地獄に墮すべし等云云。今道隆が一党良観が一党、聖一が一党、日本国の一切四衆等は此の経文に当るなり」
(真言諸宗違目)

四天王寺を後にした蓮長は、次いで円爾や蘭溪道隆を訪ねたと言われています。臨濟禅を代表する両師の名は、良観と並ぶ批判対象として大聖人の御書によく登場します。冒頭の御書にあるように、「道隆」はむろん蘭溪道隆のこと、円爾は後に藤原道家より「聖一和尚」の号を授かりますので、「聖一」と記されるのが円爾のことです。

因みに聖一といえは「聖一国師」の法号が有名ですが、これは滅後一三〇〇年頃に花園天皇より諡号として贈られたものですので、大聖人ご在世のころは同じ聖一でもまだ「聖一和尚」となります。

両師共に禅宗の教えを宋よりこの国に伝え弘めた高僧として知られますが、道隆は渡来僧、円爾は日本よりの留学僧です。両者共に



ほぼ同時代に南宋にて臨濟禅を学び、また無準師範よりの教えを受け継ぐなどの共通点を持つていました。

道隆はこの時、京都東山の来迎院に招かれていたとされ、蓮長はそこに道隆を訪ねたようです。来迎院は本寺である泉涌寺の子院の一つですが、泉涌寺もまた叡山や四天王寺と同じく律、密、禅、浄土の四宗兼学が謳われていました。一見すると学問が盛んなようには見えませんが、権実を一絡げにし、無分別にただ文々句々を語んずるだけの誤った佛法(もはや佛法とも呼べませんが)が、尊き教えのごとく世にもはやされていたのです。

そして円爾の宗風もまた、禅密兼修を旨としていました。禅門を中心としながらも、真言や天台の密教教義などを巧みに取り入れ、独自の教えを弘めていきました。それはまさに四宗兼学を地で行くスタイルであったのです。

蓮長はそんな両師の法門を聞きながらも、当然その教え自体に救いを求めるような姿勢ではなかつたでしょう。既に深い智慧を身に付けた蓮長にとって、耳より入る両師の教風は、返って現在の佛敎界が直面している障礙を浮き彫りにし、己が為すべきこと、弘めるべき教えを確信させてくれる、貴重な材料となっていくのです。



ほつと絵手紙



大分県杵築市妙経寺聖徒団
後藤宏子さんから絵手紙です。
ありがとうございました。

絵手紙募集!

全国の聖徒の皆さんのHeartに温まるホッとするような「ほつと絵手紙」を募集いたします。

皆さんの絵手紙を九段事務所までお送り下さい。

よろこびに掲載致します。
どこに絵手紙お待ちしております。

つながる通信員!

教誌よろこびを共に作成している全国の通信員を毎月紹介していきます。



No. 19
千葉県西部
大塩 裕孝
正蓮寺 聖徒団
法光寺

これといった趣味は無いのですが、藤子・F・不二雄先生の作品の知識なら、通信員の中でも上位に入る自信があります。お気軽に聞いてください!

よろこび法話

おかげさま ~守られる幸せ~



九州教区長
宮崎県本東寺聖徒団副団長
吉田 静正

「おかげさま」という言葉は、日常茶飯事に耳にし、誰もが何げなく使っておりますが、日本に仏教がもたらされて以後、この言葉ほど、仏教思想が定着し、完全に消化され、そして純日本的に完成したものは無いと思いません。

「おかげさま」は自分一人では生きられない。必ず自分以外の他によって、生かされていることに感謝し、更に他の存在そのものが、自分の価値観を向上し、人間性を高めていることに気づき、「おかげ」であることに、敬称の「さま」も付けて尊ぶのであります。

昔の道話に、「栗の食べ方」というのがある。『ここに十個の栗がある。』

この栗をおいしく食べるには、最初に一番

おいしい栗を食べる。

次に九個のうちで一番おいしい栗を食べる。

次に八個のうち、七個のうち、六個のうちと順次、残った中で一番おいしい栗を食べ、最後に残りの一番おいしい栗を食べる。

こうすると、全部の栗をことごとくおいしく食べたことになるわけである。

これとは逆に、最初に十個のうちで一番まずい栗を食べる。

次に九個のうちで一番まずい栗を食べる。

かくて順次にまずい栗を食べて、最後のまずい栗を食べ終わったとき、全部の栗をまずく食べたことになるのである。』

このように一つの栗の食べ方でも、おいしく食べる方法と、まずく食べる方法とがあるが、われわれの日常生活においても、これに類するものがある。

このかけがいのない一生を明るく愉快に送ることも、暗く不愉快な一生にしてしまうのも、われわれの心の持ち方いかんによって決まるものである。

いつも有り難いと「おかげさま」感謝の心で生活できるひとは、十個の栗を全部おいしく食べたのと同じように、俱生神月守に守られ人生をいつも楽しく明るく送ることの出来るひとである。

こういう人生の処し方を便宜主義とか気休



め主義とかいう説もあるが、決してそうではない。

日蓮大聖人ご妙判『四条金吾殿返事』には、

「強盛に信力をいだし給うべし。過ぎし存命不思議と思わせたまえ」

とお教えあるが、死を背負った《生》を今日も過ごせたことは、『不思議にも有り難いきわみ』なのである。

仮に介護を受ける老人がいる。その介護に携わる人は、この老人が自分の前にいる「おかげ」で、介護という尊い行為ができるわけが、自然と芽生えます。

この「させていたただく」行為の積み重ねが、菩薩道、仏への帰依、弘教に繋がる事になります。「おかげさま」こそ、仏教の主張「慈悲」なのであります。

振り返って、今日を生きている幸せを知り、ご本佛、俱生神月守に感謝して「おかげさま」をもって報いることが信仰の増進に繋がります。

俱生神月守を持ち、日々「おかげさま」の精神で正法の信仰に励んでまいりましょう。

本誌イラスト 小川けんいち

全国のよろこびちゃん vol. 36

大分県杵築市
妙経寺聖徒団

古宮 千聖ちゃん
平成16年10月生まれ

秋のお彼岸にお寺にお参りに来
ました。おはぎを作るお手伝い
をお母さんと一緒にしました。
楽しかったです。



全国のよろこびちゃんを募集しています！

ひとりで悩まずに
くしきれいだんほう
九識靈断法



人生には必ず活路があります。日々の生活における悩みや不安を取り払い、満ち足りた生活の手助けとなるべく、「九識靈断法」という法術があります。信仰しているお寺にご相談ください。 ※完全予約制

利生寺



日蓮宗靈断師会会長
利生寺聖徒団団長

末吉 観道

〒930-0055 富山県富山市梅沢町3-16-10
TEL 076-421-8776 FAX 076-421-8250

正蓮寺



日蓮宗靈断師会 副会長
日蓮宗宗議員
正蓮寺聖徒団 団長

大塩 孝信

〒290-0151 千葉県市原市瀬又134-1
TEL 0436-52-0207
FAX 0436-52-2288

信用第一の専門店

◇格調高い関東風仏具◇

宗務院指定

仏壇・仏具 仏像彫刻
内陣荘厳具 設計製作

(株)中野三佛屋

東京都台東区寿2丁目7の12
電話 03 (3843) 6951
FAX 03 (3843) 6973
定休日 日曜日

砥森山 法華寺



生きて救われの道場

住職 阿部 是秀
副住職 阿部 是眞

〒028-0304
岩手県遠野市宮守町下宮守31-69-1
電話 0198-67-3166
FAX 0198-67-2227

安房乃國隨一 三十番神祈願道場



顕本寺聖徒団
団長 小泉 輝泰

「1人で悩まず、まずは相談」
〒295-0002
千葉県南房総市千倉町川合690-1
TEL 0470-44-1062
FAX 0470-44-1524